



▲ 琴の演奏に挑戦! 手ほどきを受け、美しい音色を奏でた



▲ お茶の作法を見よう見まねで学ぶ。初めて味わうお抹茶の感想は、「おいしい!」

◀ 弓引き体験。的を見据える姿は真剣そのもの



▲▶ 屋食のうどん作り。生地を伸ばして、製麺する作業を体験。顔についた小麦粉を見て、お互いに笑いあうコマ



初めて触れる異文化への驚き

～ドナウエッシンゲン市学生訪問団が来市～



ドイツ・ドナウエッシンゲン市(以下ド市)の学生訪問団が、7月29日～8月10日の約2週間、上山市に滞在し、日本の文化を学ぶとともに、市民との交流を図りました。

今回上山市を訪れた学生は7人。学生たちは市内の家庭にホームステイし、市内の施設見学やクアオルト健康ウォーキングなどを体験しました。

8月2日には、県立上山明新館高等学校を訪問。ド市の学生たちは各部活動を見学したほか、弓道や茶道の体験を勧められると、積極的に日本の文化に触れていました。

交流した同校3年の松田愛美さん、石垣奈津実さん、黒澤舞子さんは、言葉の壁を感じながらも、「事前に相手の文化を学ぶことが大事」(松田さん)、「自分の気持ちが伝えられるよう英語を勉強したい」(石垣さん)、「相手と共通する文化をきっかけに積極的にコミュニケーションしたい」(黒沢さん)と国際交流への意欲を高めました。

VOICE～ド市学生訪問団から



ヴァネッサ・ヴェンツさん
(17歳)

日本の文化はドイツと違うように感じました。例えば、トイレの中に和式のトイレと洋式のウォシュレットのトイレが混在しているように、どこに行っても、昔と今の文化が一緒にあるのがとても興味深かったです。

日本の人々はみんな優しく、優しい国という印象です。また、子どもたちがスポーツに親しんでいて、私もドイツに戻ったらスポーツをしたいと思いました。日本語も勉強して、また日本に来たいと考えています。